

# プール学院報

愛と奉仕

14<sup>th</sup>  
POOLE GAKUIN  
FOUNDED 1879

第84号

2017年3月1日  
発行

学校法人 プール学院

〒544-0033

大阪市生野区勝山北1-19-31

TEL.06-6741-7005

FAX.06-6731-2431



ご挨拶

## 新しい創造

理事長・学院長 杉山 修一



学院報が新しい編集方針のもと体裁も一新されました。神の栄光のために建てられたプール学院のことをより多くの人にわかりやすく伝えていくためのリニューアルといえます。

聖書は私たちに新しくあることの大切さを語ります。聖書が語る新しさは、体裁を変える、形式を新しくするという、時間的に最新のものを意味する英語でいう「ニュー」ではなく、絶えず新鮮であること、本質的に新たにされていくという、英語でいう「フレッシュ」という意味の新しさです。2017年度、私たちプール学院は創立の理念を絶えず新鮮に受け止めていくための準備の時とします。2018年度から学院の組織、運営などが新しくなる(ニュー)ということにきっかりに、単に外面的な変化、新しさだけではなく、プール学院の歴史を貫き、支えてきたキ

リスト教の理念という変わることはない新しい(フレッシュ)価値を身に着けていくことが大切だということです。イエス・キリストを信じる人々によって始められたプール学院に連なる私たちには、イエス・キリストのいのちが息づいています。そのいのちの輝きは137年を経て古くなるどころか、ますます光り輝き、キリストのいのちの新しさに満たされるのです。2017年度、私たちは神と人を愛し、神と人に仕える人間を育てる学院として、ますます成長していくのです。

「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造されたものなのです」

(Ⅱコリント 5:17)

## CONTENTS

理事長・学院長挨拶 ..... 1

### [大学・短期大学部]

教職員メッセージ ..... 2

秘書科の取り組み ..... 4

幼児教育保育学科の取り組み ..... 5

### [中学校・高等学校]

校長挨拶 ..... 6

生徒メッセージ ..... 7

卒業生紹介 ..... 7

主な行事 ..... 9

クラブ等の成果 ..... 9

### キリスト教の

メッセージ&コラム ..... 10

同窓会だより ..... 11

法人だより ..... 12

学院人事 ..... 12

編集後記 ..... 12



## 普通の大学教員が日々考えていること

プール学院大学 飯田 真人 ・ 短期大学部 高間 準

社会一般では、メディアに登場するようなスター教員以外は、大学の教員の地味な印象は否めません。その反面、世間の人々に比べて時間的に余裕があって、悠々自適な日々の生活を送ることができると思われているのも事実でしょう。しかし、アクチュアルな現場ではそういった牧歌的なイメージはなかなか成立しにくい現状があります。文科省が示してきたアクションプランによって、大学教員の峻別・差別化をして、資源（研究資金獲得など）を配当していく方向性を打ち出しているからです。そもそも大学教員はどのような仕事を建前にしているか、そこからお話します。

### 大学教員のしごと

大学教員の職務内容は、一般的に「教育」、「研究」、「社会貢献」と言われています。「教育」は大学生に行う授業やゼミの指導であったりします。小中高の授業やホームルーム指導と同じジャンルです。次の「研究」は、自分の専門分野の進取な考えを世間に問うていく取り組みを休みなく続けていくことに他なりません。それが現代に意味あることなのかどうか、学会などの発表でチャレンジ続ける試みです。これにはどのジャンルでもそれなりの資金が要ります。そのために、「科研費」を取得するため、毎年後期がはじまると、その提出日時まで、気ぜわしい日々を過ごさざるを得ません。ここには、一般にはなじみがない「エフォート率」という概念があります。研究資金を集めたい研究者にとってはいつも頭の痛い数字です。「エフォート率」とは、国の競争的研究資金に応募するときに求められる指標のひとつで、研究者が1年間に仕事をする時間を100%と考え、応募する研究にどのくらいの時間があてられるかを、パーセンテージで示ことを求められます。研究が本気か否か、いつも問われている気がします。最後の「社会貢献」は大学での教育成果を世間一般に分かり易く示すこと、地域連携などがその具体例です。小中高のプラバンが地域のお祭などにボランティアで出演することと似ていますね。

このように見ると、一番不可解なのが「研究」というジャンルです。してもしなくても同じような印象を持たれますが、移籍や昇進の際に評価される項目はなにかと言えば、論文数だったり、競争的資金獲得歴だったり、研究業績だったり、受賞歴だったり、研究のことが中心に問われることは事実です。実際の「教育」のジャンルの実績は数値に置き換えにくい側面を持っていますので、あまり問われないのも仕方ありません。しかし、最近の傾向として、大学教員の職責を分けて、「教育教授」、「研究教授」、「社会貢献教授」などをつくるべきだという議論がなされているのも事実です。ちなみに、関西の新設大学では、研究などは必要なく、「教育教授」に徹してもらう旨を伝えられることもあるそうです。このように、教授と一口にいっても様々です。研究が得意な教授もいれば、教育に熱心な教授もいる。メディアでのパフォーマンスが得意な教授もいる。それらの教授陣がうまくかみ合って大学という運営はうまくいくものだと思います。研究ばかりで教育を疎かにしては不信感が増しますし、手厚く教育を施しても、研究は昔はしていましたが将来の展望は望めません。このような種々の特性を活かした大学は理想的なのですが、文科省の資格審査ではこのような分類は、まだありません。こういった現状を背景に、現在の大学教員は「教育」以外の「研究」や「社会貢献」にもかなりの時間を割いて実績を積み重ねる努力を強いられるのも事実です。なかなか、悠々自適に過ごさせてもらえないものです。

でも、自分の研究に関して、仮説を立ててそれを検証していくプロセスや、それをまとめて世に問うチャレンジは芸術家が世に問う大作を仕上げていくような醍醐味があるものです。今回は、私たちが進めている共同研究について、少し紙面を割いて説明したいと思います。

### 私たちの研究内容

私たちは大学・短期大学それぞれの分野で、美術教育のジャンルを「教育」しています。その分野と同じ、小学校の「図画工作」教育及び幼稚園、保育所などの領域「表現」のなかの造形分野を「研究」対象としています。その学問体系の中で懸案事項といえば、

教科としての美術教育では、どのような校種においても、その学習によって得られる学力が明確な言語化や数値化しにくい特徴を持ち、他教科の科学的・数値的で見えやすい量的な学力と比較される度に、質的研究における明確なエビデンス構築の必要性が求められる現状がある、ということです。つまり、美術教育で得られる学力とは、他教科に比べて違いがあるのか、もしあるとしたらどのようなものか、仮にないなら、教科として存続の意味は何か、などと問われていることです。

それを肯定的に実現するには、教科観の哲学的構築をベースとした包括的研究が必要ですが、最新の教育学知見の導入や外部機関の意見を積極的に取り入れた美術教育における学力観の刷新を進めない限りそれは困難だと思われまます。

私たちの研究では、まず、次期幼稚園教育要領や小学校学習指導要領にその概念が導入されると見込まれる「社会情動的スキル」または「非認知能力」(IQのような一部の知的能力ではなく、感情をコントロールできる能力)(ヘックマンなど)やアクティブ・ラーニングのベースになっている「拡張的学習理論」(エンゲストローム)の知見を取り入れ、幼児期・小学校低学年における美術教育(領域「表現」・「図画工作」)にて獲得すべき学力の明確化を進めることを研究対象としています。

次に、現代においてグローバルな視野に立って自他国の文化を理解していくために必要不可欠である美術館の「鑑賞教育」を積極的に進めて、時間や空間を超えた文化との対面によって、自分のアイデンティティを形成する場を目指しつつ、「社会情動的スキル」獲得や対話を基にした「拡張的学習理論」を活用して、次世代型の学力を形成できる可能性を「鑑賞教育」により追求することを進めています。

さらに、美術館の教育普及セクションと密に連携・協力し、今までの一時的で期間限定であった投げ込み型教材の鑑賞スタイルを転換させ、「鑑賞教育」により得られる次世代の学力の追求を目指す長期的な「プロジェクト学習」の試行やそこで活用する「美術鑑賞ツール」の開発まで進める、ハードウェアの形成も加えた包括的な研究を推進していくことです。

上記3つの研究の目的により、以下に研究概要やその計画を示したいと思います。

- 1 美術教育が従来の科学的観点に依らない相互主観主義、すなわち、現象学的な見方による美術や表現を説明するための質的研究を深めることにより、美術や表現の新たなエビデンスを構築することを目指します。その見方を基にして、幼児期の「遊び」から小学校低学年の学力に繋がる「非認知能力」(社会情動的スキル)獲得を目指した保幼小連携・接続に関する次世代の理念や小学校低学年に至る学力の涵養について解明することも含まれます。
- 2 幼稚園教育要領の領域「表現」では、「美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動をほかの



幼児や教師と共有し、様々に表現すること」が強調されています。また、「言葉」の領域では、「言葉による伝え合いができるようにすること」とあります。こうした内容を踏まえ、対話や見立てを介した「拡張的学習理論」や継続力により培う「非認知能力」獲得のためには、美術館の「鑑賞教育」による本研究のプログラムにより実現されるという仮説を立て、幼稚園、保育所に向いて長期的なプロジェクト学習を試みながら検証することを進めます。

さらに、これらの方法を用いた「保幼小連携・接続」の新たなメソッドの可能性についても検証する計画です。

- 3 美術館の教育普及指導プログラムにおける環境構成を変えていくために、今までにない、ハードウェアとしての「鑑賞ツールや鑑賞グッズの開発」を進めます。例えば、幼児や低学年の児童が活用しやすく弱者を視野に入れたワークシートの記述や描画が簡単に持ち運べて楽しくなる「ライティング&ドローイングボード(画板)」、可動式で軽くて背負える「リュック・チェア(椅子)」や親子の美術館鑑賞を支援する「静かなベビーカートやバギー」などの鑑賞用ツールを、3Dプリンタ出力で試作を重ねながら、和歌山県立近代美術館と共同開発していきます。
- 4 今まで述べてきた「鑑賞ツールや鑑賞グッズ」を活用しながら、「拡張的学習理論」により「協動的」な行為を媒介した問題解決学習や、行為の持続性を主眼として遊びから学力に転換させる「社会情動的スキル」を組み込んだ本研究による「学力醸成のための美術館鑑賞教育パッケージ」教育プロジェクトの成果を、美術館教育普及の観点により、保育所、幼稚園、小学校の教員などに対して、指導者育成または啓蒙活動として展開、活用してまとめていく計画です。

以上の4つの研究を計画し、推進しているところです。

このようなマイナーな美術教育の研究分野ですが、美術を通して子どもたちが少しでも真の学力を高められるよう、さまざまな工夫をしながら実践する機会を多く得て、手応えとして得たことを研究成果としてまとめ、次世代の幼稚園や小学校に活かせることができれば幸いです。

日々こんなことを考えながら、多くの大学教員はそれを生業としている者たちなのです。

## 短期大学部 秘書科の取り組みについて

今年度も秘書科では様々な活動を通じて、学生が楽しく学んでいます。その様子を写真で紹介します。

### 授業

スーツ姿で秘書の実務とビジネスマナーを実践しながら習得します。この授業では、全員が「秘書」なのです。



### 就活出陣式

就職活動を控えた春休み前、それぞれの決意を垂れ幕に込めて出陣式を行いました。多くの学生が納得のいく進路を見つけられました。



### 「手作業・無農薬の米作り」プロジェクト

堺市美原区の農家のご協力を得て手作業による無農薬の米作りを行い、収穫したもち米を使ったオリジナル料理メニューの開発を行っています。



### 「さかいで夏休み」プロジェクト

「さかいで夏休み」プロジェクトでは、8月に東北からご家族を堺市に迎えて心身を休めていただく「保養」のお手伝いをしました。7月には地域に呼びかけて『祝福の海』上映会を開催しました。



### 「国会議員秘書に学ぶ」プロジェクト

「国会議員秘書に学ぶ」プロジェクトで東京永田町に赴き、3名の国会議員秘書の方々から、秘書業務の実際・議員秘書に必要な資質などのお話を伺いました。質疑応答の後、国会議事堂を見学しました。



### 卒業生懇談会

夏休み終盤の9月、1年生が卒業生を迎えてお話をうかがう懇談会を行いました。それぞれの分野で活躍される姿に刺激を受けたようです。



### 「やまとなでし香」プロジェクト

堺の線香製造業とのプロジェクト「やまとなでし香」は今年も新製品を企画、製造しました。堺・山之口商店街でのハロウィンイベントにも協力し、ケーブルテレビや新聞で取り上げられました。



## 短期大学部 幼児教育保育学科の取り組みについて

幼児教育保育学科では保育の質的な向上を目指し、保育実践を想定しながらプロセスを重視した子どもと保育者の相互作用や環境構成を大切に教育を展開しています。また、事後に全ての取り組みの省察・振り返りを実施して、保育学を定着させる指導も進めています。

### ■ オリエンテーションデー

7月第1週目の土曜日に実施しました。保育実習を複数回経験した2年生が夏季に初めて実習を経験する1年生に対して、その心構えや内容について指導するのが趣旨です。また、地域の子育て親子も招いて、人形劇を共に鑑賞するおもてなしも指導の一環として実施しています。



### ■ ミュージカル

幼保学科では創設初年度から、2年次前期に「ミュージカル」という選択科目を配置し、夏期休暇中のオープンキャンパス時にチャペルで上演しています。オペラ歌手でもある科目担当教員のオリジナル脚本と舞台作製、及び指導により、毎年、学生にとって身近なストーリーが演じられています。それ迄、本格的な歌や踊りの勉強をしたことがない学生たちが、セリフ回し等を含めて全てを一から学びながら、半期で発表まで漕ぎつけるのは大変ですが、公演後の学生たちの達成感に満ちた笑顔には、毎年、感動を覚えます。



### ■ アセンブリー

6月にエレノアチャペルでアセンブリーが全学生参加で開催されました。今年は「ミッション・バラバ」。講師は金沢泰裕牧師です。キリストの身代わりとして救われたバラバに因んで自分たちの活動を「ミッション・バラバ」として、青少年を更生、薬物被害に取り組んでいる話や、元暴力団組員からキリスト教の福音を知り、改心した話など、学生たちには大変熱心に聞き入っていました。

### ■ 菜園活動

プール学院大学・短期大学の敷地内にある菜園で前期の基礎ゼミナールの一環として、環境指導やコミュニケーション能力の向上を図るために実施しています。手作りおもちゃを製作し、さつまいもの植えつけをして、秋季の地域の子育て支援活動に活かします。



### ■ ぽてっこクラブ

幼児教育保育学科では、毎年10月～11月に3回に分けてぽてっこクラブを開催しています。地域の子どもたちや保護者の方々と交流し、保育者としてスキルアップを図るのがねらいです。学生たちが受付や始めと終わりの挨拶を担当し、手遊びや紙芝居を披露します。また、それぞれの担当のご家族と一緒に、お芋掘り、バター作り、風車や紙とんぼなどのおもちゃ作りを体験します。子どもたちの笑顔で溢れる楽しい行事です。



### ■ 合唱コンクール

本学科では数年前より、1年次後期のゼミナール授業で合唱コンクールを実施しています。

前期の「音楽表現」という授業で練習をする二部合唱曲を課題曲とし、クラス毎に決めた自由曲と併せた得点で、6クラスの順位を決定します。音楽的な完成度のみならず、団結力や元気の良さ等も評価の対象になります。1年次前期には互いのことをまだよく知らないクラスでも、合唱コンクールの練習や本番を通して結束力や連帯感が培われ、その後の学生生活に良い効果を発揮しています。





## 2016年度 グローバルチャレンジプログラム

# カナダ1年留学 視察を終えて

校長 内海 伸晃

グローバルチャレンジプログラムの1つ、カナダ1年留学はバンクーバーのデルタ地区にある3つの公立高校で実施された。今年度初めてということで私が現地まで出向いて生徒達の様子や、お世話になっている学校の様子を視察することになった。

カナダは留学生の受け入れが制度的に確立されている。その州が責任をもって留学生を受け入れ、その期間中は適切な指導を行っている。その地区の教育委員会が国際教育課を置き、各校に指導的な担当管理職を派遣し、各校の校長と連絡を取りあって留学生の面倒を見ている。その下で女性のコーディネーターが留学生の日々の悩みや、相談にのっている。問題が大きいときは担当管理職が問題を解決する仕組みである。組織がしっかりしているので、学校による不公平感は少ないし、安心である。

各学校ではそれぞれ特徴がみられた。規模の大きい学校や、こじんまりしている学校、留学生の多い学校、少ない学校。アジア系の留学生が多い学校や、かなりハイクラスの地域にある学校もあった。どの学校も生徒の様子や全体の雰囲気は上品で落ち着いた感じを受けた。共学の公立学校ならではの施設や授業も見られた。座学だけでなく木工や金属加工などの授業や、音楽や美術の授業、芝生の運動場での体育、調理や被服の授業も盛んに行われていた。それらは午後からの授業で選択科目が多いようだ。



本校の生徒達はおおむね充実しているように見受けられた。このプログラムに参加した理由も様々ではあるが、やはり英語の力をつけたいこと、“今の自分を変えたい”と思っていることはほぼ共通していた。ホストファミリーも様々で、アジア系の家庭や、ヨーロッパ系の家庭など様々ではあるが、みんな親切で温かく接してもらっているようであった。お弁当は様々で、毎日作ってもらっている家庭や、自分で作るのが家庭のルールというところもあった。その生徒は自分で毎日作ってみると、母親のありがたさがよくわかり、改めて自分の母親に感謝していたのが印象深かった。通学も様々で、およそホストファミリーから徒歩で15分くらいである。中には毎日車で送ってもらっている生徒もいた。



はじめの3か月は何がなんだかよくわからないうちに過ぎ去ったようである。苦しいときは同じ学校にいる日本からの先輩の留学生や、コーディネーターに相談しているようだ。中にはどうしようもないときには日本の母親にメールで相談している生徒もいた。なんとか自力で友達と協力して苦しい状況から抜けだしていた。私が行ったときには、皆明るく楽しそうであった。将来の進路については、やはり英語に関係ある進路をめざしているという声が何人からか聞いた。

生徒は皆しっかりしている印象を持った。それは様々な人たちの愛情をいっぱい受けているからに違いない。今回、カナダの旅行业者MYKさんも大変よくやっていた。現地の同窓会、北米支部の皆さん、特に近藤さん品川さんにはお世話になった。現地の教会でのイベントやピクニックなどを企画していただき感謝している。今回留学している7名の生徒達、それぞれに何十人もの温かい愛情が注がれていることを実感した。それはプール学院が日々行っている礼拝を通して、神様からプレゼントされた愛情であるに違いない。残された期間、彼女たちのために実りある生活と日々の安全を祈り続けたい。

## 生徒メッセージ

# NHK杯全国高校 放送コンテストに参加して

高校Ⅲ年F組 伊藤 沙織

入学当時から目指していた夢の舞台、NHK杯全国高校放送コンテスト。毎年、地方予選を経て全国の放送部員が1000人以上東京に集まります。私はこの夏の第63回大会にアナウンス部門大阪代表の1人として出場することができました。

アナウンス部門はニュースの取材から始まります。私が題材にしたのは卒業生の岩澤見子さんが経営する「保護犬・保護猫カフェ」です。これは人間の身勝手に捨てられ、行き場を失った犬や猫に新しい家族を見つけるためのカフェです。私は取材で初めて犬・猫の殺処分の現状や繁殖犬の過酷な実態を知り、その事実を多くの人に知ってほしいと考えたのです。

原稿は1分30秒以内で読むという規定があります。その中で「全ての犬や猫に幸せに暮らしてほしい」という岩澤さんの思いを伝えたいと考え、文章を簡潔にし、読みを工夫しました。会場では「卒業生の思いがよく伝わってきた」「初めて繁殖犬の存在を知った」「カフェに行きたくなった」等の声をたくさんの人から聞きました。私の思



いを伝えることができたので嬉しく、また伝えることの重要性に改めて気づくことができました。

大会を通じ、OGの先輩方、他校の先生、同じ目標を持つ他校の部員に出会って話をし、今までと違う世界を見ることができました。早朝から深夜までかなりハードな練習でしたが、大好きな放送のことだけを考える大会の4日間は本当に楽しく、私にとってかけがえのない時間となりました。

大会後、情報を伝える仕事に就くという進路の目標ができました。高校で放送部活動を始めた時から私を支えてくださった多くの方々への感謝を忘れず、必ず実現したいと思います。

シリーズ  
第24回

活躍する  
卒業生

## 社会福祉法人大阪市西区社会福祉協議会 地域支援担当主査

奥保 貴永さん(第101回高校卒業生)



## 人とのつながりが自分の成長に

平成9年に大阪市西区社会福祉協議会に入社し、現在は地域活動を担当しています。社会福祉協議会というのは、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現をめざして福祉事業を行う民間組織です。福祉のまちづくりの拠点としての「話し合いの場」、課題解決に向けての「関係づくりの場」、さらには地域の福祉のあり方を考える「福祉の学びの場」などを提供するために、常に地域の情報をキャッチし、裏方役として活動しています。東日本大震災においては災害ボランティアセンターを社会福祉協議会や様々な団体で立ち上げ、ボランティアの需給調整などの役割を担いましたので協議会の認知度も上がり、日常の業務においてもつながりを広げることができました。私自身も現地で活動し、今までにない経験と人とのつながりの大切さ、自助・共助の必要性など様々なことを学ばせて頂きました。

また現在は仕事の傍ら、中高時代に所属していた器械体操部のコーチとして、母校の後輩たちの指導をしています。技術面だけでなく「責任を持って行動する」、「相手の気持ちになって考える(思いやりの気持ちを持つ)」ことを伝えながら、自分自身も日々成長をさせてもらっています。クラブ活動ではルールを守ることの



大切さ、礼儀作法、言葉づかい、協調性、あきらめないこと等たくさんのことを学びました。その経験が現在の仕事にも活かされており、ご指導いただいた恩師や先輩方のおかげと感謝しています。

行事紹介

British Hills英語研修と  
相馬市立磯部中学校訪問

英語科教諭 池幡 由衣子

10月17日から19日までの3日間、中学3年生は福島県にあるBritish Hillsへ英語研修に行ってきました。「パスポートのいない英国」である現地では、本国イギリスで建築された建物やイギリスらしい景観があふれる中で、生徒たちは15人ほどのグループに分かれて、個性豊かなネイティブ講師から様々なレッスンを受けました。最初は英語が苦手不安がっていた生徒も、講師による楽しいアプローチのおかげで、すぐに英語でのレッスンを楽しむようになり、1レッスン目が終わった時、生徒には満面の笑みがあふれていました。空き時間中も、外国人スタッフに英語で質問をしてスタンプラリーをするなど、生徒たちが積極的に英語を話そうとする姿が見られました。最終日には、「帰りたくない」「ここでずっとレッスンを受けたい」と言う生徒もいて、生徒たちはとても充実した英語学習を経験できたようです。これからの海外研修や英語学習に向けて、生徒たちの意欲が増進した、とても良い研修となりました。最終日には、東日本大震災で被災した、相馬市立磯部中学校の生徒たちと交流をしました。生徒たちは、福島原発の放射能汚染の話や今後への不安の話などに真剣に耳を傾け、各自様々な想いを抱いたようです。今回のこの二つの経験が、生徒たちの情緒や知識を養い、より充実した学生生活への糧となることを願うばかりです。



生徒体験メッセージ

私たちは英語研修で、British Hillsに行きました。何ヶ月も前から先生方が準備して下さったプログラムは、とても良かったです。私が特に頑張ったのは、先生やスタッフの方たちに英語で8個質問してサインを集めたり、ビンゴを完成させたりするものです。最初は緊張して上手に喋れなかったけれど、英語で伝えることに慣れると積極的な気持ちになり、8個もすぐに集まり、ビンゴもクリアすることができました。英語が苦手な私でも、頑張りながら楽しむことができたので、B.H.に行って良かったと思います。

中学3年C組 南 りこ

相馬市磯部中学校の皆様との交流は、短い時間でしたが、とても良い思い出となりました。あの3月11日、東京で震度5弱の揺れを体験した私は、たとえ震度1の地震でも今も怖くて悲しい気持ちになります。あの夜は恐怖で熱を出し、テレビをつけたまま寝ました。今回、磯部中の先生方が地震の災害について語って下さいましたが、東京でのことが思い出され、少し悲しくなりました。でも、やはりその場に行くと、ものの見方が変わりました。改めて地震の恐ろしさ、そして人と交流することの楽しさを知ることができました。

中学3年B組 富田 ゆきの





## 主な行事

### 7月

～13日	期末考査
11日～16日	高II修学旅行 (シンガポール・マレーシア・インドネシア)
11日～30日	高III夏期講座
14日～15日	中1校外学習
21日～30日	高校 英国1ヶ月語学研修
27日	終業の日
29日～8月4日	タイボランティアスタディーツアー

### 8月

22日	高III授業開始
22日～25日	中学一貫・高III一貫SアドS文理勉強合宿
27日	始業の日

### 9月

6日～7日	実力考査(中・高III)
10日	同窓生対象入試説明会
15日	中高鑑賞の日(ミュージカル「エリザベト」)
24日	文化祭

### 10月

13日～19日	中間考査
17日～19日	中3 British Hills 英語合宿
20日	中・高III遠足
23日	中学入試プレテスト
28日～11月1日	韓国・崇徳女子中高訪問
29日	漢検(中全員受験・高)

### 11月

5日	高校オープンスクール 芸術実技講習
9日	宗教講話
11日	収穫感謝礼拝
12日	大阪府内女子中学生英語暗誦大会 高校入試説明会 芸術実技講習
19日	中学合唱コンクール 中学入試説明会
24日	中学授業参観 クリスマスツリー点灯式
25日	中3 卒業論文提出日

### 12月

3日・10日	高校入試説明会 芸術実技講習
5日～9日	期末考査
10日～27日	高III冬期講座
12日	中2バルナバ病院思春期教室
14日	中1キツザニアEnglish Day 中23・高IIIGTEC
16日	クリスマス礼拝
21日	終業の日 中学入試説明会 キャンドルライトサービス
22日～30日	中学オーストラリア英語研修

## クラブ等の成果

### 〈団体の部〉

#### 中高吹奏楽部

- 大阪府吹奏楽コンクール中地区大会7.28  
金賞 中地区代表
- 大阪府吹奏楽コンクール8.13  
銀賞

#### 高校フォークソング部

- 第9回全国高等学校軽音楽フェスティバル2016  
天下統一6.12  
優秀賞

#### 中学ソフトボール部

- 第19回大阪私立中学校総合体育大会  
ソフトボールの部7.18  
準優勝
- 第31回近畿私立中学校女子ソフトボール選手権大会8.2・3  
1部第3位 シード権獲得

### 〈個人の部〉

#### 高校放送部

- 第63回NHK杯全国高校放送コンテスト6.19  
アナウンス部門 第5位 伊藤 沙織(ⅢF) 全国大会大阪府代表
- 第36回近畿高等学校総合文化祭放送文化部門11.23  
朗読小部門 奨励賞 稲田 緋奈(ⅡF)

#### 高校美術部

- 第65回大阪私学美術展7.31  
優秀賞 山根 茉莉(ⅢA)／湯川 華与子(ⅢA)  
奨励賞 砂原 ゆい(ⅢA)／原 星香(ⅢA)／山根 茉莉(ⅢA)  
鈴木 美紀(ⅠC)／玉岡 那菜(ⅠF)

#### 高校創作舞踊部

- 全日本高校・大学ダンスフェスティバル8.3～6  
審査員賞 西川 たから(ⅢD)／喜多 美幸(ⅢB)

#### 中学放送部

- 第33回NHK杯全国中学校放送コンテスト7.10  
アナウンス部門 優良 森賀 里依(3C) 全国大会大阪府代表  
朗読部門 最優秀 南 りこ(3C) 全国大会大阪府代表

#### 中学美術部

- 第65回大阪私学美術展7.31  
優秀賞 江草 朱音(3B)  
奨励賞 高篠 彩香(2A)／山本 藍(3A)／尾白 安里(3B)

#### 中学卓球部

- 大阪市中学校第5ブロック卓球大会8.20  
1年生シングルの部 準優勝 三枝 真綾(1C)

第12回大阪私学中学校英語暗唱・弁論大会10.29  
暗唱の部 第2位 江崎 さくら(2B)

中学校・高等学校

## シリーズ「聖書と私」

高校教頭 藤井 竜平



「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」(ヨハネによる福音書15章12, 13節)ヨハネ福音書のこのあまりにも有名な聖句が、私が初めて出合った聖書の言葉である。

キリスト教主義の中学校入試に合格した私には、入学式から新鮮な驚きの連続であった。(おそらくプール学院の入学式でも新入生のみなさんは同じような体験をされたと思う。)特に初めて手にした聖書にはまさに「驚愕」の一言であった。分厚く、字ばかりで、挿絵一つない。12歳の少年にとってはおおよそ興味をもって自ら読むには程遠い存在であった。しかも先生方も、先輩方もみんな持っている。「そんなに大切な本なんだろうか。」疑問は大きくなる一方であった。

礼拝形式で入学式は進行していくが、その中で最初に読まれた聖書が、この箇所である。キリスト教についてほとんど予備知識もなく、出会いもなかった私には、「友のために命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」という聖句はあまりにもストレートで、重たいものであった。しかも校長先生の式辞の中で、この聖句を自ら実践するかのように、従弟たちの命を守るために自ら命をささげた先輩の話を読まれたものであるから、「大変な学校に入学してしまった。」と思うのと同時に、聖書との出会いは、強烈なインパクトを残したのである。

あの時の体験から50年近く経過したが、聖書は同じ箇所を開いても、読むたびに新たな深まりと、あたかも神様から宿題を出されたかのように新しい課題の発見がある。たとえば、学校礼拝でよく読まれる「よきサマリア人のたとえ」(ルカによる福音書10章25節以下)は、神の愛に私たちがどのように応答すればよいのかについて、イエスが語られたとされる非常にわかりやすいたとえ話の一つである。しかし、「サマリア人とはどのような人々か?」、「サマリア人がこのユダヤ人を救助するというのもつ意味は何か?」、「本当の隣人となるために私たちは何をしなければいけないのか?」など、イエスが私たちに投げかけている「問い」の数々は数え切れず、また奥深いものである。

これからもずっと聖書とのつながりは続くわけだが、自分としては聖書との出会いのインパクトを大切にしながら、さらに「聖書を読む精度」を上げていきたいと思っている。

大学・短期大学部

## ああ、我ら日本人!!

チャプレン 竹内 信義



日本人は、良くも悪くも、深く原因を追究することを嫌いますよね!何事も追及しない、原因をあらわにはしてはならない、といった不文律の中に閉じ込められている、そんな気がするのはわたしだけでしょか。

以前ある外国人の方に「どうして日本人はクリスマスにケーキなのですか?」と聞かれたとき、「えっ」と思いました。虚を突かれたのです。そこで改めて少し調べてみました。

ウィキペディア(ネットの辞典)によると、フランスではクリスマスには「ビュッシュ・ド・ノエル」で、ビュッシュは「木、丸太」で「クリスマス」の意。そんなケーキだそうです。ドイツでは勿論「シュトレーレン」です。最近よく売られています。正式には「クリストレーン」です。イギリスでは「クリスマス・プディング」で、具材にプラムが使われることが多いため、プラム・プディングとも呼ばれています。外見は日本人が想像するケーキや一般に「プリン」と呼ばれるカスタードプディングとは大きく異なる、となっています。アメリカは勿論「七面鳥」ですよね。どうしてクリスマスにケーキを食べるのか?の問に関する答えは、不二家という会社が1922年(94年前)に売り出したのが始まりという結論になります。

こうして見ますと、バレンタインデーは2月14日で、女性が男性に思いを伝える日、その日はチョコレートを贈る日、これが日本です。実は、女性にチョコレートを贈るのも、ホワイトデーにお返しをするのもすべて日本独自の習慣。原因は、1960年頃の森永製菓が「愛する人にチョコレートを贈りましょう」と新聞に広告を出した、伊勢丹がバレンタインデーのフェアを開催したことなどにより急速に一般化したのが原因となっています。欧米でチョコレートを贈る習慣はないのです。ハロウィンも同じでしょう。11月1日の諸聖徒日という教会の暦と関係があるのですが、日本では理由を知らない人がほとんどでしょう。原因や理由を知らず、不思議にも思わないで受け入れる、我々日本人ってメチャクチャ気の善い人たちですよ。





## 半期活動報告

一般社団法人POOLE理事長  
鈴木 光子 (高73回・小柴)



同窓会は、昨年9月に賀寿祝福礼拝の時をもち、60歳から97歳の方が集ってくださり、祝福を受けました。今年度も9月に開催をいたしますので還暦、古希、喜寿、傘寿としてそれ以上の方は、どうぞご予約ください。10月には同窓会主催「子育て親育ちカフェ」が開催されました。このセミナーは同窓生のみならず学院関係者、地域の方々にも参加して頂けます。どうぞ皆様お気軽にご参加ください。

11月には同窓会の九州支部会が博多で行われ、その折、熊本を訪れボランティアセンターと被災地を訪ねました。私たちの同窓会は学院と共にあり、いつも広い視野をもつ同窓会でありたいと心しております。

## ミヅパ会総会報告とお願い

プール学院大学同窓会ミヅパ会  
会長 五十嵐 よし子 (高84回・短英26期・佐藤)

お一人でも多くの卒業生の皆様にご出席くださることを願う「ミヅパ会総会」は初夏の開催から、秋の大学祭と同日開催するようになって久しくなりました。

2016年も例年どおり、秋晴れの大学祭の日、10月30日(日)に開催いたしました。チャプレンと学生音楽ボランティアグループによる礼拝から始まり、会計・役員改選の議事承認および活動報告等を行い、II部ではフルートとギターによるしっとりとした演奏と株式会社蓬莱の常務取締役による「豚まんと会社一筋の楽しい人生哲学の話」に聞き惚れた一時を過ごしました。

しかし例年とは異なり、母校プール学院大学大学院が2017年3月の在学生の卒業をもって廃止予定、四年制大学は2018年4月に設置者が学校法人桃山学院に変更となり、桃山学院教育大学(仮称)と大学名称が変更予定であること、残る短期大学の将来検討委員会が発足していること等の報告がありました。

同窓会ミヅパ会としても大きな課題と考えております。会員の皆様には今後ともミヅパ会にご支援を賜り、是非2017年度のミヅパ会総会に足をお運びくださいますようお願い申し上げます。



## 2016年度 クラス代表者会 開催報告



常任学年代表委員長 小野 法子 (高72回・久保)

11月5日(土)に同窓会館にて2016年度 クラス代表者会を開催いたしました。桜井学院長室室長よりプール学院の近況について、鈴木同窓会理事長より同窓会の活動等についてのお話があった後、「プール学院創立140周年」に関する議事が話し合われました。また、樋井社会ボランティアの会代表からボランティア参加協力をお願い、同窓会各委員会からの報告に続き、最後はプール学院高校コーラス部によるミニコンサートを楽しみました。

## 九州支部総会参加報告

常任理事 古川 和子 (高75回・妻鹿)

2016年11月18日(金)タカクラホテル福岡にて開催され出席者は杉山プール学院理事長、高校65～88回生13名(九州から7名)。礼拝・自己紹介・新旧校歌合唱等あり、今後の支部会について、今回は熊本復興の願いを込め、熊本で開催をという事に。九州在住の



皆さん、是非ご参加ください! 支部総会前、熊本に行き熊本聖三一(さんいち)教会の山崎貞司先生に益城町を案内して頂き、まだまだ支援をしなければと痛感しました。

## 『第1回 子育て親育ちカフェ』開催報告

広報委員会委員長 浦垣 敏子 (高77回・江畑)

10月15日(土)プール学院同窓会館に於いて開催いたしました。田宮由美先生(高88回)のやさしい笑顔とお話、現役ママから孫育ての参加者は引き込まれるように2時間を過ごしました。前半のテーマ「身近な人との人間関係の大切さ」「心に存在する5人の私」に大変盛り上がり、後半の「子どもを自立させる親・ダメにする親」のお話では熱中して聞き入り、心の成長には幼いころの愛情の大切さを改めて学ぶことが出来ました。『子育て親育ちカフェ』は今後ともたくさんの方に繋げていければと思っております。



第2回 2017年4月15日(土)午後

第3回 2017年7月1日(土)午後を開催予定しています。

お問合せは同窓会館事務室迄

FAX:06-6710-4410 Mail:info@poole-obog.com

## プール学院大学の 桃山学院への継承について[1] ～プール学院と桃山学院～

2016年12月22日のプール学院大学・短期大学部のホームページに、以下の内容(原文のまま一部省略)を掲載しており、改めてご紹介をいたします。なお、同時に桃山学院のホームページにおいても本件が報告されています。

「12月21日(水)、学校法人桃山学院と学校法人プール学院は、「プール学院大学の設置者変更に関する基本契約書」(以下、「基本契約書」という。)の締結式を執り行いました。

両学院は、2015年11月16日の基本合意にもとづき、2016年7月27日に、

①2018年4月1日付けで、プール学院大学の設置者を学校法人桃山学院に変更する

②プール学院大学の名称を変更する

についての合意書を手交しておりました。その後さらに協議を重ねた結果、今回の基本契約書の締結に至りました。《中略》

なお、プール学院大学短期大学部(2018年度より、プール学院短期大学に名称変更予定)は引き続き学校法人プール学院が同じキャンパスで運営をいたします。』

ご承知の通り、プール学院と桃山学院は、1799年にロンドンで設立された英国聖公会宣教協会(CMS)の宣教師により設立され、同じ聖公会の学校として、大阪の地において共に歩みをしてまいりました。特に最近では、2012年に双方の法人による包括協定を締結し、その後は大学部門間で2013年に、中学・高校部門間では2014年に包括協定を結んでおります。

このように背景と理念を共有する双方の学校が、新しいチャレンジとして、2018年度からのプール学院大学の設置者変更による継承を行うべき準備をしております。

なお、2018年4月以降学校法人プール学院は、中学・高校・短期大学において、キリスト教女子教育を行なう学校を運営することとなります。

## 聖公会関係学校教職員研修会を終えて

法人事務局長 加藤 明宏

全国に聖公会関係の学校がどれくらいあるのかご存知ですか?それらの学校が一堂に会して、2016年8月18～19日プール学院勝山キャンパスにて、教職員研修会が行われました。プール学院が当番校として、企画・運営を担当しました。最初の質問の答えは、日本と英国に16法人と2つの学校です。プール学院のように、中学校・高等学校・短大・大学と複数の学校がある法人がほとんどですので、学校の数と言え、約40になります。全国および英国から教職員が137名、プール学院のスタッフが46名、総勢183名の研修会となりました。テーマは「新しい時代のキリスト教学校」、プール学院大学学生支援センター長の竹田契一先生が、「知っておきたい特別支援教育最前線——キリスト教学校にとって大切なこと」と題して、基調講演を行いました。2日間にわたって行われた分科会のテーマは多種多様、地域性と時代背景から「川口居留地から始まったミッションスクール」「大阪の歴史散策(真田丸)」「大阪歴史散歩(コリアタウン)」など、プール学院・大阪ならではのテーマもありました。さらに時代の要請に応えるために「特別支援教育」「ジェンダー」「グローバル教育」などの分科会もありました。10数年に1回の当番校の役割を果たせたことに感謝したいと思います。



日本聖公会 川口基督教会にて

### 学校法人役員・評議員

〈就任〉-2016.9.26付-

監事 米虫 克次

〈退任〉-2016.9.26付-

監事 佐野 信三

### 教職員

〈新任〉-2016.10.1付-

\*大学・短大

教授(特別任用) 石塚 謙二

〈退職〉-2017.1.31付-

\*中学・高校

職員 渡邊 智康

### 〈訃報〉

●松井 英子氏

2016.11.24逝去(86歳)

1947.4.1～1992.3.31 本部職員

1992.4.1～1999.3.31 本部参与

1992.4.1～2003.3.31 学院評議員

長年にわたるプール学院でのお働きに感謝し、つつしんで魂の平安をお祈り申し上げます。

## 編集後記

新しい「学院報」はいかがでしょうか。守るべきものを大切にしつつ、新しくチャレンジを行なうことの難しさを痛感いたしました。存在し続けるためには、変わる必要があると考えております。そのためにも皆様のご意見ご感想をいただければ幸いです。「桜」